

10月に第135回全体会を福島県郡山市で開催



会長 曾根

倉庫業青年経営者協議会（倉庫協、曾根和光会長）は13日、総会を開いた。

「強い絆で明るい未来を拓こう」をスローガンに掲げた曾根体制の2年目にあたる2014年度も引き続き、「倉庫、倉庫業に改めて感謝しつつ、会員同士の絆をさらに強く太いものにする」「会員同士が、互助・互恵の精神で共榮

できるようにする」を活動方針とし、会員企業社員による企業交流を継続。倉庫現場見学のほか、倉庫業から派生する新たなビジネスの模索・検討会を開催する予定。会員が積極的に参加したくなるような中身の濃い活動を行い、会の活性化を図るとともに、今月からリニューアルしたホームページ（HP）を通じてタイムリーな情報発信に努める。また、国土交通省、日本倉庫協会（安部正一会長）、日本倉庫経営者倶楽部（高取良雄会長）との連携を強化し、日本倉庫経営者倶楽部とは正副会長会を開催することで、双方の会員増強で協力体制を構築す

6月19日 第4291号（第3種郵便物認可）



77人が総会に参加

る。



HPをリニューアル

13年度に10年
後の倉庫協を見
据えたHPのリ
ニューアル、ま
た、事務局の負
担軽減を目的と
した行事管理シ
ステムの構築等
のシステム化に
取り組んできた
が、このほど稼
働した。HPは
メニューの選択
が容易になり、
フェイスブック
（公開型・非公
開型のページの
ほか震災復興状
況など）、ツイ
ッターとも連
携。正副会長の
企業のパナーを
張った。HPの
検索性を高め、
HP上での資料

の保管、顔写真付きの会員名簿の作成等の作業も進めていく。行事管理システムは3月から稼働し、出欠確認、入金管理等事務局の作業をシステム上でカバーできるようになった。

曾根会長は「今日は天候が悪い中で77人が参加した。醍醐（正明）前会長の時に会員数150人体制を目指し、（それを達成し）昨年私が

バトンを受け、146人でスタートした。会員増強の努力で現在の会員数は152人だが、今日の総会で5人が卒業するので147人になる。ぜひ、積極的に会員勧誘をしてほしい。強力な4副会長、各委員会委員長、常任幹事の皆さんと一緒に運営してきたが、副会長が想像以上に自分からいろいろと動いてくれて会の活性化を感じている。会員企業が発展し、会員が元気になるような会にしたい」と挨拶。

来賓の国土交通省総合政策局物流政策課物流産業家の平山翔吾総合課長補佐は、「荷動きは日倉協の21社統計をみるとおおむね順調とうかがっている。しかし、トラック不足、燃油高騰といった不安要素がある。倉庫は物流の要で、IT、新しい荷役システムが採り入れられている。（東日本大）震災でも重要な支援物資拠点として活躍し、その後も（災害に強い物流システム構築に向け）ご協力いただいている」と強調。日倉協の小笠原常務理事は、会員に求められる活動、倉庫業の公共性を認識し、その維持を目指す日倉協と倉庫協の運営精神が似通っているとして「切磋琢磨しながら、倉庫事業者に資する施策を推進したい」と述べた。

なお、倉庫協では7月24日、40周年記念研修会を沖縄で開催。日本で唯一の「国際物流特区」と24時間稼働の貨物空港を持つ沖縄で国際物流ハブ機能を視察する。また、10月9日には第135回全体会を福島県郡山市で開催。福島原発事故により、東日本大震災から3年が過ぎても復興が進んでいない地域を視察するほか、風評被害を払しょくするためにコメの倉庫で行われている放射能測定検査も見学する。